

校長会報

第153号

宇都宮市立東小学校
栃木県小学校長会事務局発行責任者
口川 和伸印刷所
(有)正栄社印刷所

調べ 考える

栃木県小学校長会長 口川 和伸



昨年末に二〇三〇年度にも改訂される小中高の学習指導要領の議論が文科大臣の諮問により始まりました。

今の「主体的な学びの実現」などの方向性は維持しつつ多様な子供への対応やデジタル社会を見据えた教育に加えて教員の負担軽減を図る内容を目指したのになりそうです。まさに子供たちと教員がともにウェルビーイングを感じる改訂となることが求められています。

このような時期に私たち校長は、全連小活動の意義でもある「つながり―学び―国に声を届け」ながら学校経営の

充実に努めていく必要があります。そのためには、二つの課題があります。

一点目として、まずは校長自身が自ら学び、市・町の教育施策はもとより県・国の取組の現状を調べることです。

今は私たちが当たり前にやってきた教育に新しい考え方や手法が求められてきています。GIGAスクール構想下の端末を活用した授業の在り方、社会的自立を目指し「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではないとする不登校の新たな考え方、教科書のデジタル化への転換の是非など多様な児童の状況に対応するため、教育分野は今や考え方が更新（県教育長・「常識のアップデート」）され、様々な取組が繰り広げられています。それらの現状を把握し国や

県の取組を背景とした我が市・町の教育施策の状況をまずは調べてほしいと思います。我が自治体の教育費が他市町と比べ高いのか低いのか、兼任職数はどうなのか、そういう基本的な教育施策を把握すると、次は必ず課題が見えてきます。

ここをもっとこうすれば：となったら、県や国に要望の必要がある際は、ぜひ役員や各地区理事の校長先生を通じて本会に声をお届けください。しっかりと訴えてまいりたいと思います。

二点目は、前述の「ここをもっとこうすれば：」の場面と重なりますが、校長自身がいわば「クリティカルシンキング」として他者の意見をそのまま鵜呑みにせず様々な視点から掘り下げて考え、自分の独自の意見をもつことです。他者の考えをよく吟味し必要に応じて上手く取り込み自分の意見を広げ深めていくことも大切ですが、今までにとらわれない柔軟で斬新な視点

が、校長自らの日々の学校経営の判断場面ごとに求められていると思います。

以上、学校経営を充実させていく上での二つの課題を述べましたが、充実させていく中で先に申しあげたとおり、教員のウェルビーイングの視点はとても大切です。

学校は、県教育委員会、各市町教育委員会のご指導の下、働き方改革の推進に取り組んでまいりました。その結果、教職員の時間外勤務の状況は一定の改善がみられてきました。しかしながら、依然として長時間勤務や子供と向き合う時間の不足などの実態もみられています。さらに、全国的な教員不足という憂慮すべき状況も続いています。学校は、働き方改革の更なる推進に取り組むことで教職員にとつて「働きやすい」職場環境づくりを目指すとともに、教員が本来の職務である子供たちへの指導に専念し、教員としての「やりがい」を実感しながら勤務できるよう、校内研修の充実や業務改善に取り組んでいきたいと考えております。「ホームラン」ではなく「ヒット」の積み重ねが大切です。

結びとなりますが、私たち校長は一人職です。校長会の組織を生かし、校長同士の「つながり」を深めながら、一致団結して栃木の子供たちの笑顔のために取り組んでいきたいと考えております。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

第七十八回
栃木県小学校長会総会

令和七年度栃木県小学校長会が五月二十日に栃木県教育会館において、栃木県教育委員会教育長の中村千浩様、前会長の堀場幸伸様をお招きして開催されました。

口川和伸会長は挨拶の中で、私たち校長が「つながり、学び、国に声を届け」ながら学校経営の充実に努めること、そのための課題として、まず校長自身が行政の教育施策の現状を知ることの必要性に触れ、経験のアップデートを心がけながら、子供たちの笑顔のために、校長同士が一致団結して栃木の教育の充実に向け頑張っていきたい、と述べました。

その後、事業報告や決算報告、今年度の事業案や予算案が審議され、承認されました。

総会後の研修会では、作新大学人間文化学部特任教授（元県小学校長会長）浪花寛様から、「授業の質的な改善につながるカリキュラム評価」と題して講演があり、「カリキュラム評価を学校評価や授業の改善向上・職員研修に結び付ける考え方や方策について、ご講話をいただきました。様々なデータやご自身のこれまでの経験を踏まえた内容に、造詣の深さを改めて感じると共に、我々校長が目指すべき学校経営の指針を示してくださいました。

令和七年度
活動目標

本校長会は、学校が更に発展を続けることを目指し、以下の八点を具体目標として、県並びに市町教育委員会や関係機関との関係性を大切にするとともに、校長間のネットワークの一層の活性化を図りながら研究・実践を積み重ね、基本目標の具現化に努める。

《基本目標》

自ら未来を創造し ともに生きる社会を創る子供の育成を目指す 学校経営の推進

《具体目標》

- 一 学校経営の充実
- 二 創意ある教育課程の実施
- 三 社会の変化に対応した教育の推進
- 四 豊かな情操と道徳心を養う教育の推進
- 五 教職員の指導力の向上と人材育成
- 六 危機管理意識の高揚と能力の向上
- 七 学校の働き方改革の推進
- 八 関係諸機関との連携と組織の強化

地区会長一覧

宇都宮・上三川 宮澤 文洋

宇都宮市立築瀬小学校
教育現場はいつの時代も課題山積です。そのような状況にあっても、本地区校長会七十七名は、「二枚岩」となつて、先見性のある学校経営に努めてまいります。

上都賀 加藤 孝

日光市立今市第三小学校
四十二名の会員が、主体的に課題解決に取り組む校長会を目指します。県の目標のもと、学校経営の充実などについて、情報を共有し、目標の具現化に努めます。

芳賀 吉河 昭光

益子町立益子小学校
校長間のネットワークの一層の活性化を図りながら研修を深め、相互の資質の向上を図りながら、子供も教員も元気あふれる学校づくりを目指してまいります。

下都賀 生田目 秀之

野木町立友沼小学校
二町の校長間のつながり

を大切にし、情報共有を行いつつ、自ら未来を創造していく児童の育成を目指して、活力あふれる学校づくりに努めてまいります。

下野 齋藤 佳代子

下野市立石橋北小学校
コンパクトな地区のまとまりの良さを生かし、子供たちが夢をもち、未来を切り拓く力を育むために、豊かな教育活動に意欲的に取り組む校長会を目指してまいります。

小山 川村 克彦

小山市立乙女小学校
「未来を担う次世代の育成と学び・文化を育むひとつの依拠」に依拠した本市教育の基本理念に沿って、校長会一致団結しながら、実現に向けて邁進いたします。

栃木 平野 宗

栃木市立栃木中央小学校
子供たちや教職員、家庭・地域のために、各校に「たった一人しかない」校長の安

心・自信・意欲を高め合い学校教育の充実と発展に取り組んでまいります。

塩谷南那須 大金 仁

那須烏山市立烏山小学校
三市三町、二十九校の校長先生方と連携を密に行い子供たちの安全・安心を第一に考えた学校経営に尽力いたします。チーム塩谷南那須で頑張ります！

那須 海老澤 康雄

那須塩原市立埼玉小学校
那須地区二市一町の子供たちの健全育成のために、会員相互の情報共有に努めるとともに、連携・協働・研修の充実主体的に取り組む校長会を目指します。

佐野 永松 啓輔

佐野市立佐野小学校
今後、義務教育学校化が進む本市の実情を鑑みながら、校長同士のつながりを重視して、児童・教職員にとつて居がいのある学校づくりに努めてまいります。

足利 安藤 佳子

足利市立葉鹿小学校
「足利市の教育目標」具現に向けて、市内二十二校の連携・協力を深め、各学校の更なる充実と発展が図れるよう、校長会の運営に取り組んでいきます。

令和七年度
役員一覧

会長 口川和伸(宇・東)

副会長 宮澤文洋(宇・築瀬)

書記 室田和弘(宇・宝木)

関 守康(宇・御幸)

青木幹雄(芳・中川)

小川史子(宇・明保)

会計 麦倉克英(宇・西)

会計監査 大金 仁(塩谷南那須)

和田るみ子(那・佐久山)

永松啓輔(佐・佐野)

川島 啓(下野・石橋)

専門部
活動方針

総務部

部長 金子 渉
宇・西原小学校

主題

栃木県小学校長会活動方針の具体的な推進

二 活動目標・内容

- ・ 本会の事業推進及び連絡調整
- ・ 教育懇談会などによる対策活動
- ・ 各部会に属さない必要事項の処理

(一) 県小学校長会定期総会の準備・受付など

(二) 県教育委員会への提案事項作成のためのアンケート実施と集計及び提案事項の検討

(三) 提案書作成と提出
小中学校長会で作成

(今年度は、中学校が取りまとめ)

(四) 県教育委員会との教育懇談会出席

(五) 提案事項に対する回答の整理と報告

(六) 全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会に参加(本県の実情等の発表及び他県の情報収集)

研修部

部長 皆川 美弥子
宇・緑が丘小学校

一 主題

自ら未来を創造し
ともに生きる社会を創る
子供の育成を目指す
学校経営の推進

二 活動目標・内容

全連小大会主題と県小学校長会の活動目標に基づき、活動を推進する。

(一) 各地区の研究主題に基づく全員参加による研修の推進と充実

(二) 各種研究大会及び研修会の推進と協力

・ 第七十七回全連小福岡大会への参加

・ 第七十七回関ブロ新潟大会への参加(研究発表)

・ 栃木県小学校長会中央研究大会での研修推進

(三) 小学校長研修記録「第六十五号」の編集



調査部

部長 市川 文人
宇・豊郷北小学校

一 主題

各学校が取り組んでいる「生きる力」を育む教育の現状についての調査及び学校経営上の課題解決に迫る資料の提供

二 活動目標・内容

各学校が取り組んでいる教育活動について調査し、学校経営上の諸課題解決のための資料を提供する。

(一) カリキュラム・マネジメントについて(一年次)

(二) 小学校における不登校対策について(二年次)

※七月上旬に、県内の各小学校を対象にアンケート調査を実施します。

ので、ご協力をお願いします。

また、調査結果は、小学校長研修記録「第六十五号」に掲載しますので、是非

ご活用ください。

厚生部

部長 半田 文男
宇・今泉小学校

一 主題

福利厚生の充実と健康増進・健康管理の推進

二 活動目標・内容

会員の福利厚生に関する各種事業を推進する。

(一) 学校生活協同組合との連携による会員の福利厚生の充実

(二) 教育関係諸団体との合同による福利厚生事業の充実のための要望

(三) 栃木県小中学校長会慶弔規程に基づく、会員の慶弔に関する事業及び会計業務

※令和七年度は、中学校長会の慶弔会会計が県小中学校長会の慶弔会計を担当します。

今年度も会員のための各種事業が効率よく実施されるように努めます。

ので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

また、会員の慶弔に関する情報がありましたら、お知らせください。

広報部

部長 稲澤 正明
宇・御幸が原小学校

一 主題

栃木県小学校長会の活動目標の具現化に関わる広報活動の推進

二 活動目標・内容

校長会の活動目標に關することや、学校が直面する経営上の諸問題についての情報を会報及びホームページで提供する。

(一) 「校長会報」の年二回発行(七月・二月)

・ 豊かな心を育てる学校経営

・ 特色ある学校づくり

・ 県校長会研修の取組

・ 県教育委員会からの情報

・ 全連小の動向・情報

・ 心に響く様々な話題

(二) 全連小広報活動への協力(機関紙「小学校時報」など)

(三) 県小学校長会のホームページの運営・管理

主張 シンギュラリティは到来するのか？

栃木県小学校長会副会長 宮澤 文洋

多くの方がご存知のとおり、シンギュラリティ（技術的特異点）とは、自律的な人工知能が自己フィードバックによる改良を繰り返すことによって、人間を上回る知性が誕生するという仮説です。

この概念はアメリカの未来学者でありAI研究の世界的権威であるレイ・カーツワイル氏によって約二〇年ほど前に提唱されました。彼は、コンピュータの計算能力がムーアの法則に従って指数関数的に向上していることを指摘し、やがてAIが人間の知能を凌駕する時点が来ると予測したのです。

シンギュラリティは、人類の歴史における大きな転換点となり、それまでの常識や価値観が大きく変わると考えられています。特に近年では様々なAI技術が一般的に普及してきているのはご案内のとおりです。

例えば、対話型のAIを月額料金を支払って活用すると、画像から情報を読み取ったり説明を加えたりできるため、教科書の写真を送信すると指導案を作成することができます。また、文章から高品質な動画の作成もできます。これらから、AIの進化の速さを感じられます。

カーツワイル氏は、最新の著書の中で「テクノロジーと脳の融合」と説いており、未来の可能性と危険がともに高まるとしています。

一方では、AIは人間の「意識」や「直観」といった肌感覚のものは、その仕組みが理解できないためシンギュラリティの到来は困難であるとする説もあります。

さて、文科大臣は令和六年十二月に、次期学習指導要領の改訂に向け中教審に諮問しました。この後、答申を受けて学習指導要領の策定作業に入るわけですが、その際、先の十年後の二〇四〇年を見据えた改訂になってるはずで、シンギュラリティについての言及はないと思われませんが、常に課題山積の教育界で我々学校リーダーは、先を見通しあらゆる想定のもと、用意周到・準備万端の姿勢をもちたいものです。

一年間、口川会長にお仕えし、微力ながら小学校長会を盛り上げていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

個人的には、シンギュラリティの到来を感じてみたいと思っております……。

主張 「たった一人しかない」 児童・教職員のために

栃木県小学校長会副会長 平野 宗

たった一人しかない自分をたった一度しかない人生を本当に生かさなかつたら人間 生まれてきたかいがないじゃないか

これは、本校出身、栃木市名誉市民である山本有三先生作品「路傍の石」の中で、主人公の吾一少年に担任の次野先生が教諭した言葉です。

そして、栃木市の教育における人権尊重・生命尊重の精神の基盤となっているものでもあります。

校長として、学校が抱える様々な課題の解決に向かうときは、必ずこの言葉に立ち返るようになっています。

子供のことは「たった一人しかない」存在であり、その子の「たった一度しかない」小学校生活を大切にしようと考えています。

また、教職員のことも「たった一人しかない」存在であり、「たった一度しかない」人生を生かせるようにしたいと考えています。そうすると、不思議なことに、

どんな問題が起こっても、解決に向けて何をすべきかが浮かび上がってくるとともに、解決を目指して最大限の努力をするぞという力が湧いてきます。

現在、各校が直面する課題は、多様化し複雑化しています。

特に、全国や本県における小学校でのいじめ・不登校などの状況は深刻さを増しています。いじめの認知件数や不登校児童数は、年々増加しており、それらへの対応は、学校経営上の喫緊の課題です。

課題解決に向けては、学業指導、児童理解に基づく指導の充実が必要であり、そのためには教職員の指導力向上や組織的・協働的な取組が欠かせません。

また、家庭・地域・関係機関などとの連携・協働体制の充実を図ることも重要です。

県小学校長会において、各地区の取組や研修などから多くのことを学ばせていただくことで、各校に「たった一人しかない」校長同士が支え合い、子供・教職員にとつて安心できる居場所、魅力ある学び場づくりに取り組めるよう、微力ではありますが貢献してまいりたいと思えます。

自ら未来を創造し ともに生きる社会を創る子どもの育成を目指す学校経営

先に生まれた大人とともに子供の生きる先を描いて

小山市立小山城東小学校 青木 浩美

一 はじめに

本校は、昭和五十二年四月一日に開校し、令和八年度に創立五十年を迎えます。昨年度、本市は市制七十年の節目を迎えました。田園環境都市小山ビジョンが策定され、三十年後の未来にあるべき姿が、三年超の歳月をかけて明らかにされました。これは、小山市に関わる全ての人のウェルビーイングの実現を目指しています。

小山市の中心部に位置している本校は、学区内に公園・図書館・中央郵便局・駅・商業施設・幼稚園・大学などを要しており、交通量も大変多く、住宅地がそのほとんどを占める中に、農地の面影も感じられる地域です。児童数のピーク時には千人超の児童を抱えていましたが、少子化による児童数の減少に伴う学校適正配置に関する検討により学区再編が実施され、現在は五百二名の児童が通っています。

二 「三つの心」

学校経営の方針を、教職員・児童・保護者・地域の皆様と「共通認識」として共有するためのツールが、本校にある「三つの心」という言葉です。「人を思う心」「強い心」「本気で勉強する心」がその

三つの心です。行事などの実施計画作成時には、ねらいの末尾にこのワードが表記され、教職員の認識が高められたり、体験学習などの際に、活動内容によってどんな心をもくまさせたいかを問うことで、児童の自己統制力や自己調整力を高めたりしています。

始業式・終業式の代表児童の言葉の中で、「三つの心」が語られることも少なくありません。「三つの心」を自分自身で育む児童の伴走者となり、「為すこと」によって自分の心が豊かになる」という経験値を、義務教育の中で一つ一つ積み重ねさせる日々の営みが、ウェルビーイングの実現を目指す本市を支える中軸となる人材育成につながることを確信しています。

三 おわりに

本校は本市のモデル校として一早く、学校運営協議会が立ち上げられ、地域とともにある学校としての歴史も刻み続けています。

今年の夏休みには、運営協議会が主催する親子防災キャンプが実施されます。有事の際の避難所としての機能を十分果たすために、地域の力と子供の力の融合をシミュレーションする予定です。

大規模校の強み、それぞれの得意を生かす「数は力」

佐野市立城北小学校 嶋田 政己

一 はじめに

本校は、明治六年九月十六日、一向寺の本堂を仮教室とし、私立明善館として創立されました。その後、校地や校名、学区の変更などもあり、現在は佐野駅や佐野城址城山公園の北に位置し、創立百五十二年目を迎えます。本年度の児童数は七百七十名、教職員は六十八名、佐野市で一番規模の大きな学校です。

二 教育目標の具現化を目指して

本校の最大の強みは、佐野市の小学校で最大数を誇る児童と教職員です。令和四・六年度に佐野市教委より指定を受けた人権教育研究では、主題を「互いのよさを認め合い、生き生きと活動する北斗の子の育成」とし、共感的な集団づくりを授業や特別活動などで進めました。校内でたくさんさんの個性や考えと交流できることは、児童にとっても教職員にとっても、自分のよさや得意を実感できる場ともなっています。特に、年間を通して活動する縦割班での異学年交流「フレンドリー活動」では、全九十六班で上級生が得意を発揮し、校庭で、教室で、楽しい時間を過ごしています。

もう一つの強みは、学校支援ボランティア「城北スマイル」です。



フレンドリー活動



スマイルの花壇整備

三 おわりに
人が多く大変なこともありませんが、数を力に、児童、教職員、保護者、地域住民が、それぞれの得意を生かし、生き生きと活動できる学校でありたいと思います。

特色ある学校づくり

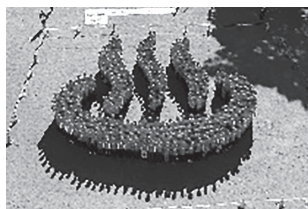
「明日も いいね 鬼怒川小」く地域と創る子供たちの学びく

日光市立鬼怒川小学校 田島 文博

今年度で創立七十八年を迎える本校は、日光市北東部に位置する児童数五十五名の小規模校です。

平成三十年には、創立七十周年を記念して、人文字で温泉マークを作り、ギネス世界記録に認定されました。栗山・

川俣地域と鶏頂高原を含む学区はとても広く、豊かな自然環境と全国から観光客が訪れる鬼怒川・川治温泉があります。



本校の特色の一つは、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた「地域と連携した子供の学びづくり」です。生活科の校外学習では、毎年、バウムクーヘン店や土産物店の協力を得て体験学習を実施しています。実際に接客等を体験すること、課題を自分事としてとらえ、観光業の仕事を意欲的に学ぶ子供たちの姿が見られます。



また、三～六年生は、総合的な学習の時間で、「ふるさと学習」に取り組んでいます。日光市観光協会の方を講師に温泉の歴史を学んだり、ホテルの仕事の工夫を調べたりする学習は、子供たちが自ら課題を見つけ、主体的に課題解決に取り組む態度や他者と協働する力などの資質・能力を育成する学びの機会となっています。今年度からは、鶏頂高原の高原野菜の栽培見学も予定しており、学びの範囲を広げながら、更に地元地域のよさを探究しています。

これらの学習活動のベクトルは、本校のスローガン「明日も いいね 鬼怒川小」に向かっていきます。子供たちが、「明日も楽しい学校」は、「明日も行きたい学校」になり、保護者にとって「明日も子供を行かせたい学校」になっています。これからも、地域の教育資源を活用しながら、子供たちにとって魅力的な学びの場を創造し、心豊かでたくましい子供たちを育てていきたいと考えています。



小規模校の強みを生かした学校づくり

大田原市立奥沢小学校 小湊 かおる

本校は、明治七年四月に開設され、今年創立百五十一年目を迎えた歴史ある学校です。児童数四十七名、一年一学級、二年一学級、三年と四年が複式学級、五年と六年が複式学級、特別支援学級が一学級と全五学級の、小さな学校です。大田原市街地より東部に位置し、米作りや酪農が盛んで、農業を仕事とする保護者も多く、自然豊かな地域です。

そんな恵まれた環境を生かして春には田植え、秋には稲刈りをしたり、牧場を見学し乳牛に餌をあげたりと、様々な経験をしています。これらは、保護者を中心とした地域の皆様の御協力なしには成り立ちません。

また、本校は、金田南中学校、金丸小学校との三校で小中一貫教育を推進しています。この三校は大田原市が小中一貫教育を導入する以前から、小中連携・小小連携を推進し、各校の特色ある教育活動を大切にしつつ、児童生徒に関する情報の共有や、教職員間の交流、更には学校行事の合同開催な

どを実施してきました。本年度も、五年生の宿泊学習を金丸小学校と合同で行いました。複式学級で五名しか在籍児童がいない本校にとっては、同年齢との交流を図れる貴重な時間です。これらの機会を通じて、中学校へ進学する以前に、学区の他小学校児童と親しくなれることも、小規模校ならではの利点です。

少ない児童数だからこそ、教職員だけでなく、保護者の方や地域の皆様が、児童一人一人に、目をかけ、手をかけ、心をかけて子供たちを共に育てることができています。

今後も、小規模校のよさや特性を生かした、特色ある学校づくりを推進していきたいと考えています。



田植えをする子供たち



栃木県女性校長教頭会だより

栃木県女性校長教頭会長

山本 晶子

本会は、義務教育の充実発展と女性管理職の資質・能力の向上を目指して活動しております。今年度は公立小・中学校及び義務教育学校の女性管理職二九六名（内校長一二三名）を会員としてスタートいたしました。

本会は、新型コロナウイルス感染症への対応を機会として、そして会員の働き方改革という視点も踏まえて、総会や研修会の開催方法について工夫と改善に努めてきました。特に、夏季研修会については、対面式とオンラインを組み合わせたハイブリット形式とし、参加への負担を軽くすることで、多くの会員の参加を募っています。今年度の夏の研修会は、元南極観測隊と食調理人の篠原洋一氏をお招きして、多様性社会を生き抜くためのリーダーとしての役割や考え方について、学びを深める予定です。

本会の研究主題「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る 子供を育む学校教育の推進」の実現に向け、これからも歩んでまいりたいと思います。



「とちぎの子供たちの学力向上に向けて」

栃木県教育委員会

県教育委員会では、平成二十六年より十一年間に渡り、「とちぎっ子学力アッププロジェクト」に取り組んでまいりました。各学校においては、学力調査結果等から自校の強みと課題を見いだし、組織的に課題解決を図る検証改善サイクルの構築・運用が図られています。

また、全ての児童生徒に「資質・能力」の育成を保障していくことが重要であり、その仕組みや方法を考えることが「学力向上」に向けた取組であると捉え、各種施策を展開しています。

今後は、これまで以上に、児童生徒一人一人の習熟度に応じて、寄り添った支援が必要であることから、令和八年度より「CBTを活用した学力定着プログラム」を実施いたします。

教師による授業改善と児童生徒による学習改善の一体的な充実を図り、本県全ての児童生徒の学力向上に努めてまいりますので、ご協力をいただきますようお願いいたします。

令和七年度

関プロ理事会だより

栃木県小学校長会副会長

宮澤 文洋

第一回理事会は、神奈川県で開催された。

一 会長挨拶

昨年度の長野大会では、旅費について各都県の状況が話題となった。旅費の確実な執行に努めてほしいと思う。

本協議会のもち方について、引き続き、議論を重ねていく。

二 協議

○令和六年度会務、会計報告

○令和六年度長野大会会計報告

○令和七年度役員選出

・会長（山梨県 田沢 憲）

・副会長（新潟県 藤本高雄）

・幹事（山梨県 穴水秀人）

○令和七年度事業計画、予算案

○第七十七回関プロ新潟大会

・令和七年六月十九～二十日

・全連小研究大会と同時開催

○第七十八回関プロ山梨大会

・令和八年六月十一～十二日

○第七十九回関プロ埼玉大会

・令和九年六月十～十一日

三 情報交換

・各県の次回希望テーマ提示

「全国連合小学校長会

第七十七回総会・研修会から」

栃木県小学校長会長

口川 和伸

五月二十三日、全連小理事、代議員が東京都港区虎ノ門の新ニッショーホールに参集し、総会並びに研修会が開催された。

総会では、松原新会長（東京都）からの挨拶、文部科学大臣をはじめとする来賓からの祝辞、退任役員への感謝状贈呈等があり、続いて、昨年度の事業・決算報告、本年度の活動方針、事業計画、予算案が審議され、全て承認された。

研修会では、最新の国の動向を多数盛り込んだ文部科学省初等中等教育局教育課程課長 武藤久慶氏から「今後の小学校教育の方向性」と題する講話に続き、関係各課より「教師を取り巻く環境整備」「いじめ・不登校支援対策」「GIGAスクール構想の推進」についての行政説明が、時間を押し気味に熱く行われた。

最後に、第七十七回全連小研究協議会福岡大会の概要説明があり、閉会となった。



話題の広場

子供の放課後を見守る

野木町立野木小学校
中島 亮一

本校は、創立百五十二年目を迎える伝統ある学校です。地域とのつながりも深く、多くの方が学校ボランティアとして子供たちに手を貸してくださっています。

昨年度より、町生涯学習課の主催で「野木小っ子放課後子ども教室」が始まりました。地域コーディネーターが中心になってスタッフを集め、研修や打ち合わせを行ってから活動に臨みます。

活動は月に一回程度、水曜日の放課後に行います。主な内容は、おにぎり作り、手作りおもちゃ、手話教室、押し花、軽スポーツ、ハンドベル体験、昔遊びなどです。参加は希望制ですが、本校児童の半数近くが参加しています。

本年度も多くの子供たちが参加を希望し、楽しみにしています。限られた時間ですが、子供たちにとっても地域の大人と触れ合える有意義な時間となっています。ボランティアスタッフも日常生活で子供に挨拶をされるようになったと嬉しそうに話してくださっています。

運営拠出金委員会だより

運営拠出金委員長

國谷 優

今年度より新たに県小学校長会の会員になられた校長先生方、ご昇格おめでとうございます。

皆様が入会される際にお預かりしました運営拠出金につきましては、その保管・管理を図るために、運営拠出金委員会が設けられております。

運営拠出金委員会は、運営拠出金の保管運営と管理運用について審議する組織で、校長会の主体的活動の充実強化を図ることを目的としています。

これまでには、全国連合小学校長会の記念事業関連等への支出がありました。今年度は関連する事業等への支出は予定されておりませんが、今後開催予定の小学校長会関ブロ栃木大会の準備資金として、計画的に積み立てを行っております。

会員の皆様におかれましては、本委員会の活動の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

県小学校長会事務局だより

事務局長

長谷川 昌弘

桜の季節もいつの間にか過ぎ去り、駆け足でやってきた夏のような日々が続きました。校長先生方におかれましては無事今年度の新たなスタートが切れたのではないかと思います。私は今年度より事務局長を拝命しました長谷川昌弘と申します。円滑な校長会の運営のために頑張ります。引き続きご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

年度当初の理事研修会、定期総会は、共に理事の皆様に参加していただき、多数の来賓をお招きして無事開催することができました。今年度は、関ブロ新潟大会と全連小福岡大会が予定されており、本県からも多数の校長先生が参加されます。遠隔地での大会となり、ご苦労をお掛けしますが、有意義な大会になれば幸いです。

栃木県小学校長会事務局は、今年度は長谷川と高柳事務局主任です。勤務時間は九時～十六時です。不在の場合は留守電設定にしておりますので用件をお話ください。

編集後記

東京都立川市の小学校に、二名の不審者が押し入る衝撃的な事件が発生しました。

自校の不審者対策を見直しましたが、現状では改善が難しいものもあります。また、命の危険をはらむ対応を教職員に強いることには、心苦しさを禁じえません。

改めて、訓練と工夫だけではなく、不審者侵入を許さないハード面の整備、安全確保に係る人員の常時配置等も考慮する必要性を強く感じます。

願わくは、教職員は子供たちの教育に専念し、こんな事件を起こさない人を育てるといふ、根本的な対策にこそ力を注いでいきたいものです。

本号発行に際し、玉稿をお寄せいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

茂木町立逆川小学校
添谷 元良